

1 単 元 高齢者の方に読んでもらう新聞をつくろう

2 情報活用能力育成に関する目標

伝える相手を意識しながら情報を収集、整理し、自分の考えが伝わるように情報を発信することができる。

3 情報活用能力の伸長を検証する場面と方法

アンケートを基に、高齢者の方の興味関心の高い話題を見付けたり、自分たちの学校生活の中から最近の出来事で記事にできそうな話題を見付けたりして、その中から「読み手の知りたい度」「自分たちの伝えたい度」という二つの視点で内容を分類する。

4 情報活用能力の伸長により期待される効果

伝える相手である高齢者の方を意識しながら、一つ一つの情報を吟味し、精選することで、高齢者の方の興味関心が高く、楽しんで読んでもらえる内容を子どもが選ぶことができる。

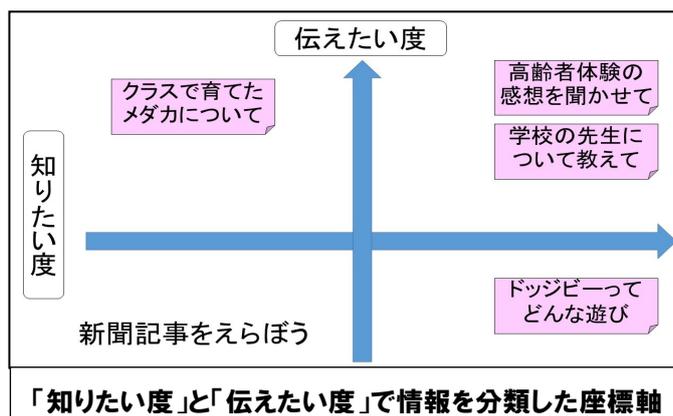
5 実践の様子

子どもは、高齢者の方が書いてくださったアンケートを読んで、どのようなことに高齢者の方は興味があるのか、どんなことを知りたいのかを考えて、付箋紙に書き出した。また、自分たちの学校生活の中で、高齢者の方に伝えたい事柄も付箋紙に書き出した。その後、自分たちが伝えたいと思う気持ちの度合い「伝えたい度」と、読み手が知りたいと思う気持ちの度合い「知りたい度」を考えながら、付箋紙に書いた情報を



話し合って記事の内容を決定している様子

座標軸に分類した。子どもは、グループ内でしっかりと話し合いをしながら、読み手の興味関心や自分たちの伝えたい気持ちとを照らし合わせ、座標軸に付箋紙を分類する姿が見られた。そして、分類した座標軸を基にして、「知りたい度」と「伝えたい度」の両方が高い情報や、「伝えたい度」が高い情報の中から、高齢者の方に興味をもってもらえそうな情報を記事の内容として選ぶことができ、多くの情報から必要な情報を精選することができた。



6 成果と課題

- 自分たちの「伝えたい度」と読み手の「知りたい度」を照らし合わせて座標軸に分類したことで、多くの情報の中から必要な情報を選び、読み手を意識して記事の内容を決定することができた。
- 「知りたい度」や「伝えたい度」を示す基準が子どもの感覚によるものが多かったため、基準があいまいなものだった。アンケートによって何人の人がその内容を知りたがっているかなど、具体的に数値化できる工夫があれば、座標軸の基準が明確になったかもしれない。